

柏崎刈羽原子力発電所における取り組み

【改善措置活動】 経営層対話における対応状況

2022年1月27日
東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

- 社長の小早川、稲垣所長による核物質防護業務を担う所員との対話を実施（2021年10月～11月実施、11月25日お知らせ済み）
- 寄せられた意見については、防災安全部長へ対応を指示するとともに、稲垣所長自ら現場の対応状況を確認。
- 引き続き、現場から寄せられた声について、聞いて終わりではなく、経営層と現場が一体となって改善を図るための取り組みを実施していく。

<核物質防護業務を担う所員から寄せられた声の一例>

- ・ 冬を迎えるにあたり、核物質防護設備の故障が発生した場合に備えて準備を整えたい
- ・ 社員警備員だけでは冬場の荒天時の設備不具合対応が不安

<対応状況>

- ・ 核物質防護部門の社員警備員に加えて事務所で勤務する社員、協力企業警備員を含めた体制を整備
- ・ 荒天時に影響がでる防護設備について、対策を施したものに切り替えを順次実施中



対応状況を確認する稲垣所長

※核物質防護の観点から詳細は控えさせていただきます

柏崎刈羽原子力発電所における取り組み

【改善措置活動】「いい発電所にしよう対話」

- 全所員を対象に実施した「車座ミーティング」「経営層対話」（2021年2月～8月）、上述の核物質防護業務を担う所員との対話（2021年10月～11月）を継続・発展させた取り組みとして、今年度は全所員を対象に「いい発電所にしよう対話」を実施
- 本取り組みは、独立検証委員会から受領した提言を踏まえた改善措置計画の一つである「柏崎刈羽のパーパス（存在意義や目標）の作成」※に向けた取り組みの一環

<「いい発電所にしよう対話」の実施概要>

- 目的
2021年7月に策定した新たな「新経営理念」をもとに、今一度「自分たちは何者か、自分たちの仕事は何か」をテーマに振り返りを行うための対話活動
- 時期
2022年1月～3月（予定）
- 対象者
柏崎刈羽原子力発電所の全所員
- 対話内容
 - ・自分の組織の役割、目的
 - ・自分たちがやらなければならないこと、やってはいけないこと



対話の様子

※柏崎刈羽のパーパス（存在意義や目標）の作成 （改善措置報告書 P128から抜粋）

【検証報告書記載】

- ・柏崎刈羽で働く人々から、ここで働いていてよかったと思える職場環境を作り出す必要がある。課せられた重責を達成できた満足感がエンゲージメントを高めることにもなるが、職員の働きがいのある職場作りを行うこともエンゲージメントの向上には必要である。その一つとして、協力企業の人達も含めて柏崎刈羽の全職員が参加して、柏崎刈羽のパーパス（存在意義や目標）を作成することも検討に値する。

【改善措置計画】

- ・柏崎刈羽の発電所全所員、協力企業が一体となって、柏崎刈羽の存在意義、どのような発電所を目指すのかを議論し、全員で共有できる目指す姿を設定する。